# 第６章　工事写真撮影方法

# 第６章　工事写真撮影方法

## 6.1　目的

この章は、工事写真の撮影及び整理についての方法を定めるものである。

## 6.2　撮影方法

### (1)　撮影箇所と内容

撮影箇所と内容は、次表に示すとおりとする。

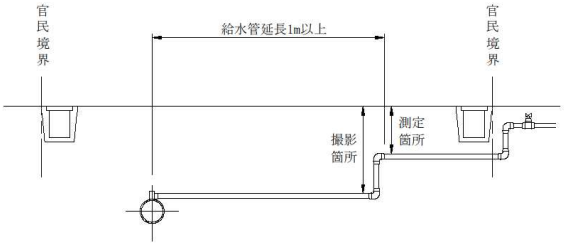
表 6-1

| 工　種 | 名　称 | 撮影箇所及び内容 | 頻　度 |
|---|---|---|---|
| 着工前<br>完　成 | | 比較となるよう、同一視点から着工前と完成の全景を入れ起点側から全路線を撮影し、終点側からも一枚撮影する。<br>【着工前】<br>試掘調査前にNo.点にポールを立てずに撮影する。<br>【完成】<br>No.点にポールを立て埋設位置を示し撮影する。 | No.毎 |
| 材料検査 | 配管材料 | 名称、規格、数量等を黒板に明記し、使用材料を撮影する。(監督員立会) | 各材料 |
| | 路盤用砂 | 名称、規格等を黒板に明記し、使用材料を撮影する。(監督員立会) | |
| | 砕石 | | |
| | 配管材料保管状況 | 配管材料の保管状況をどの材料が保管されているかわかるように一部材料を見せて撮影する。 | |
| 掘削工 | 舗装版切断状況 | 舗装版切断状況を撮影する。安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | 管理No.毎 |
| | 舗装版破砕状況 | 舗装版破砕状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 舗装版積込状況 | 舗装版積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | バックホウ掘削状況 | バックホウ掘削状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 掘削残土積込状況 | 掘削残土積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 掘削工 | 人力床堀状況 | 人力床堀状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | 監督員の指示による |
| | 木製、軽量鋼矢板土留工設置状況 | 土留工の設置状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 出来形管理 | 掘削幅及び掘削深さの出来形を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。 | 管理No.毎 |
| 布設工<br>(切替含む) | 挿絵（管割図） | 切管寸法、異形管規格、管 No.を入れた管割図とする。 | 管理No.毎及び異形管部 |
| | 配管状況 | 異形管は、個々の配管部材が明確にわかるように、進行方向及び横方向から撮影し、必要に応じて、逆方向から撮影する。黒板に配管立体図及び管 No.等（PP 施工時には前に施工した日付）を記入し、記載内容がわかるように撮影する。 | |
| | | 栓止め等の管末処理状況がわかるように黒板に配管立体図を記入し、ポリエチレンスリーブ被覆前に撮影する。 | |
| | | PP 管の場合は、黒板に切管寸法を記入し、布設箇所全てで配管状況を撮影する。 | 全路線 |
| | | 既設地下埋設物と近接する場合、構造物の形状がわかるように黒板に略図を記入し、土被り、クリアランスを撮影する。また、排水管を設置する際に側溝等既設構造物を一部取り壊した時には不可視部分の復旧状況を撮影する。 | １箇所毎 |
| | | 既設管との接合の際は挿口又は受口の清掃、補修等の状況を撮影する。 | |
| | 管明示テープ貼付状況 | 管明示テープ貼付状況を撮影する。 | 管理No.毎及び異形管部 |
| | ポリエチレンスリーブ被覆状況 | ポリエチレンスリーブが全体に被覆されたことがわかるように撮影する。また、PP 管の場合はロケーティングワイヤーの管頂部への設置状況も撮影する。 | |
| | 鋳鉄管吊込み据付工<br>PP、VP、鋼管据付工 | 吊込み据付状況等を撮影する。鋼管ねじ切りをして露出した部分に防食テープを巻き付けた場合は、巻き付け後に撮影する。 | 管理No.毎及びライナ設置箇所（継輪は１箇所毎） |
| | GX、NS 継手工接合状況 | 挿入量を明示した線に正確に合わせて接合しているか確認できる写真を横方向から撮影する。<br>継輪を設置する場合は、両挿し口端の間隔を撮影する。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 布設工<br>(切替含む) | 継手工締付状況 | メカニカル・特殊押輪等のトルク管理を撮影する。メタルタッチの場合、すきまゲージでの管理状況を撮影する。 | 口径毎1箇所<br>(フランジはガスケット形式毎) |
| | | PP継手工のトルク管理を撮影する。 | 管理No.毎<br>切替箇所毎 |
| | 継手工締付状況 | V-KING等はPP補強用コア挿入状況を設置箇所がわかるように全箇所撮影する。 | 1箇所毎 |
| | 鋳鉄管切断・溝切加工状況 | 鋳鉄管切断・溝切加工状況を撮影する。 | 口径毎1箇所 |
| | 切管補修状況 | 切管補修状況を撮影する。 | |
| | GX、NS継手挿口加工状況 | 切管の挿口加工状況を撮影する。 | |
| | 切管寸法測定 | ダクタイル鋳鉄管の切管を作成した際には、黒板に略図及び管No.、寸法を記入し、受口を左側にした切管寸法測定を撮影する。 | 1箇所毎 |
| | ライナ挿入状況 | 黒板に配管立体図及び管No.を記入し、管No.がわかるように撮影する。 | 1箇所毎 |
| | 仕切弁設置工 | 設置状況がわかるように黒板に配管立体図及び管No.を記入し、水平に設置していることを確認できるように水平器等を設置して完了を撮影する。(黒板には本管口径を記入する。)<br>割T字管、ヤノストッパー等で弁筐を設置しない仕切弁については、仕切弁の全開確認の写真を撮影する。 | 1基毎 |
| | ヤノストッパー設置工 | 設置状況、水圧検査(監督員立会)、完了を撮影する。<br>また、採取した穿孔片を撮影する。<br>ヤノストッパーⅡ型を設置する場合、本管の栓止め終了後、本体側の弁体を全閉から全開方向に戻した確認の写真を撮影する。 | |
| | 不断水連絡工 | 設置状況、水圧検査(監督員立会)、完了を撮影する。<br>また、採取した穿孔片を撮影する。<br>シーバー弁付不断水分岐用割T字管及び仕切弁筐を設置しない不断水分岐用割T字管を使用する場合、シーバー弁及び仕切弁の全開確認の写真を撮影する。<br>鋳鉄管にSUSブッシュを取付けする場合は、SUSブッシュ挿入機に装着しているSUSブッシュの挿入前及び挿入後の写真を撮影する。 | |
| | 消火栓設置工 | 設置状況がわかるように黒板に配管立体図及び管No.を記入し、ポリエチレンスリーブ被覆前に設置完了を撮影する。また、設置完了後に消火栓の通水確認を撮影する。(監督員立会)<br>基礎砕石工の出来形管理写真を撮影する。 | 1基毎 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 布設工<br>(切替含む) | 仕切弁筐設置工 | 座台、仕切弁筐を水平に設置していることが確認できるように水平器等を設置して各設置完了を撮影する。（黒板には本管口径を記入すること。）また、仕切弁筐を切断した場合、補修状況を撮影する。 | 1基毎<br>（補修状況については1箇所以上) |
| | バタフライ弁設置工 | 設置状況がわかるように黒板に配管立体図及び管 No.を記入し、完了を撮影する。 | 1基毎 |
| | インサートバルブ設置工 | 設置状況、水圧検査（監督員立会)、完了を撮影する。また、採取した穿孔片を撮影する。 | |
| | 空気弁設置工 | 設置完了を撮影する。 | |
| | 弁桝設置工 | 作業状況、設置完了を撮影する。 | |
| | エアバック式止水工 | 作業状況、ストッパーサドル処理完了を撮影する。 | 1箇所毎 |
| | 管凍結工 | 作業状況及び解氷状況を撮影する。 | |
| | 撤去工 | 廃止管や仕切弁筐等の撤去状況を撮影する。 | |
| | 水替工 | 配管作業時に沈砂桝による排水処理状況を撮影する。 | 1箇所以上 |
| | 土被り測定 | 土被りの出来形管理を管理地点もわかるように背景をいれて撮影する。 | 管理No.毎及び50m毎<br>既設管接合部 |
| | オフセット測定 | オフセット測定を管理地点がわかるように背景をいれて撮影する。 | 管理No.毎及び50m毎 |
| 管洗浄工 | 挿絵（略図） | 管洗浄範囲が確認できる平面略図とする。 | 監督員の指示による |
| | 管洗浄工 | 黒板に管洗浄範囲（管種、口径、延長）を記載し、ポリピック挿入、ポリピック吐出(監督員立会)を撮影する。 | |
| 水圧検査<br>(検査員立会) | 水圧検査 | 水圧検査範囲、管種、口径、延長、検査水圧、開始時間、終了時間を黒板に明記し、水圧計設置位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | 監督員の指示による |
| 水質検査 | 残留塩素濃度確認<br>色、濁りの確認 | 布設管を既設管及び給水管に連絡する前に、残留塩素濃度を測定及び色、濁りが異常でないことを確認し撮影する。(監督員立会) | 監督員の指示による |
| 給水管連絡工<br>(給水管取替工) | 給水管連絡状況<br>(給水管取替状況) | 分水栓用防食フィルム設置前に給水管の配管状況がわかるように、黒板に配管立体図、位置等を記入し、撮影する。 | 1箇所毎 |
| | サドル穿孔状況 | サドル穿孔状況を撮影する。また、採取した穿孔片を撮影する。 | 給水口径毎1箇所 |
| | 密着コア挿入状況 | 密着コア挿入状況を撮影する。 | |
| | 継手工締付状況 | PP継手工のトルク管理を撮影する。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 給水管連絡工<br>（給水管取替工） | 防食フィルム被覆状況 | 分水栓用防食フィルム被覆完了を撮影する。<br>※土被り測定と同写真でも可とする。 | １箇所毎 |
| | 土被り測定 | 給水管を道路上で 1.0m 以上布設する場合は、既設給水管との接続箇所の直近まで道路上の基準の土被りを確保していることが確認できる位置で給水管の土被りを撮影する。それ以外は既設給水管との接合箇所の土被りを撮影する。<br>※給水管を道路上で 1.0m 以上布設する場合の、既設給水管との接合箇所については、測定のみとし完成図面に土被りの測定値を記入する。<br>  <br> | |
| | 民地復旧状況 | 給水管取替工等において民地を掘削した場合、復旧前、復旧後を撮影する。融雪設備を有する場所は特に注意すること。 | |
| 埋戻工 | 砂埋戻締固め | 管周りの締固め状況を撮影する。<br>各層毎(1 層目→２層目→３・・）に転圧状況、転圧完了（各層の締固め厚測定）を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | 管理№毎 |
| | 出来形管理 | 砂埋戻し厚の測定状況を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。 | |
| | 埋設標識シート布設完了 | 埋設標識シート布設完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| 路盤工 | 下層路盤工 | 各層毎(1 層目→２層目→３・・）に転圧状況、転圧完了（各層の締固め厚測定）を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | 管理№毎 |
| | 下層路盤工<br>出来形管理 | 下層路盤厚を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。 | |
| | 上層路盤工 | 各層毎(1 層目→２層目→３・・）に転圧状況、転圧完了（各層の締固め厚測定）を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | 管理№毎 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 路盤工 | 上層路盤工<br>出来形管理 | 上層路盤厚を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。<br>影響幅まで上層路盤を施工する場合、上層路盤幅を撮影する。 | 管理No.毎 |
| | 仮復旧工 | As 敷均し状況、転圧状況、転圧完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| 路盤検査<br>（検査員立会） | 路盤検査 | 監督員の指示により、路盤の幅、厚さの測定状況を撮影する。 | 監督員の指示による |
| 舗装工 | 影響幅切断状況 | 影響幅切断状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | 管理No.毎 |
| | 舗装版破砕状況 | 舗装版破砕状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 舗装版積込状況 | 舗装版積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 不陸整正、転圧状況 | 不陸整正、転圧状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 不陸整正、転圧完了 | 不陸整正・転圧完了を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。 | |
| | 舗装幅測定 | 舗装幅測定の出来形管理を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 舗装厚測定 | 舗装厚測定の出来形管理を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 既設舗装版洗浄状況 | 既設舗装版洗浄状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | サイドタックコート塗布完了 | サイドタックコート塗布完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。（既設舗装及び構造物）<br>※側溝等既設構造物がある場合は特に既設構造物への塗布状況を撮影する。 | |
| | As 敷均し状況 | As 合材の敷均し状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | As 転圧状況 | As 合材の転圧状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | As 転圧完了 | As 合材の転圧完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 区画線工 | 区画線工の作業状況を撮影する。 | 管理No.毎又は１箇所毎 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 舗装工<br>（品質管理） | 散布量検収マット測定 | 散布量検収マット寸法測定及び散布前の検収マット重量を撮影する。 | 管理№毎 |
| | 乳剤散布状況 | 乳剤散布状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。（検収マットは一列に３枚設置する。） | |
| | 散布量測定 | 各管理№毎に３箇所の測定結果を現場で撮影する。（散布後の検収マット重量測定時に計算により求められた散布量(ℓ/㎡)と設計値を黒板に明記し、散布量測定していない他の検収マットは、はかりの横に置き撮影する。）<br>散布量管理表を写真の手前につけて整理する。 | |
| | 現場到着温度測定 | As 合材の現場到着温度を位置がわかるように背景をいれて撮影する。<br>現場到着温度測定表を写真の手前につけて整理する。 | 全台数 |
| | 敷均し温度測定 | As 合材の敷均し温度を位置がわかるように背景をいれて撮影する<br>敷均し温度測定表を写真の手前につけて整理する。 | 管理№毎 |
| 切削オーバーレイ工 | 路面切削機運搬状況 | 貨物自動車による路面切削機の運搬状況を撮影する。 | 適宜 |
| | 路面切削状況 | 路面切削状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。<br>すりつけがある場合、既設舗装とのすりつけ状況を撮影する。 | 監督員の指示による |
| | 路面洗浄状況 | 路面切削後、路面洗浄機等で舗装版を洗浄した状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 舗装幅測定 | 必要に応じて舗装幅測定の出来形管理を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | 舗装厚測定 | 舗装厚測定の出来形管理を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | サイドタックコート塗布完了 | サイドタックコート塗布完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。（既設舗装及び構造物）<br>※側溝等既設構造物がある場合は特に既設構造物への塗布状況を撮影する。 | |
| | 成形目地工 | 目地材の設置状況と設置完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | As 敷均し状況 | As 合材の敷均し状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | As 転圧状況 | As 合材の転圧状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |
| | As 転圧完了 | As 合材の転圧完了を位置がわかるように背景もいれて撮影する。 | |

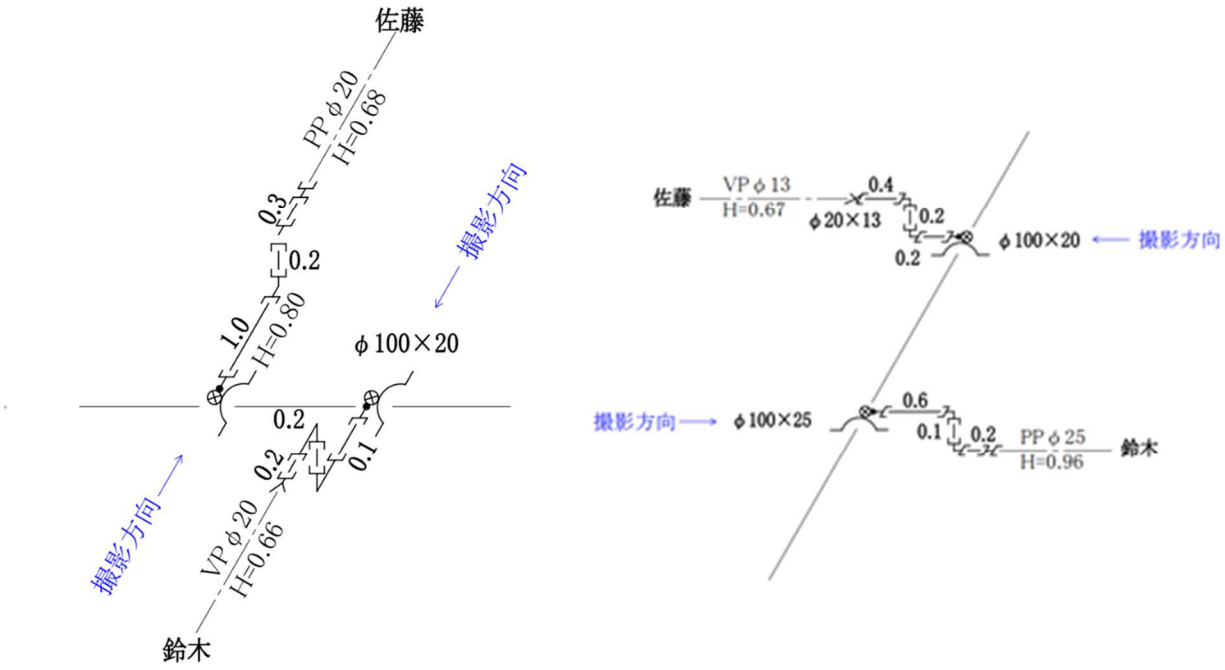
| | | | |
|---|---|---|---|
| 切削オーバーレイ工<br>（品質管理） | 散布量検収マット測定 | 散布量検収マット寸法測定及び散布前の検収マット重量を撮影する。 | 監督員の指示による |
| | 乳剤散布状況 | 乳剤散布状況を位置がわかるように背景もいれて撮影する。（検収マットは一列に３枚設置する。） | |
| | 散布量測定 | 各管理№毎に３箇所の測定結果を現場で撮影する。（散布後の検収マット重量測定時に計算により求められた散布量(ℓ/㎡)と設計値を黒板に明記し、散布量測定していない他の検収マットは、はかりの横に置き撮影する。） | |
| | 現場到着温度測定 | As 合材の現場到着温度を位置がわかるように背景をいれて撮影する。 | |
| | 敷均し温度測定 | As 合材の敷均し温度を位置がわかるように背景をいれて撮影する | |
| 舗装工<br>（完了後） | コア抜取状況 | コア抜取状況を撮影する。 | 監督員の指示による |
| | コア厚測定 | コア厚測定状況を撮影する。 | |
| | コア穴乾燥状況 | コア穴乾燥状況を撮影する。 | |
| | コア穴乳剤塗布状況 | コア穴乳剤塗布状況を撮影する。 | |
| | コア穴締固め状況 | コア穴締固め状況を撮影する。 | |
| エアモルタル充填工 | エアモルタル材料検査 | 名称、規格、数量等を黒板に明記し、使用材料を撮影する。（監督員立会） | 各材料 |
| | エアモルタル充填配管状況 | エアモルタル充填するための配管状況を撮影する。 | １箇所毎 |
| | エアモルタル注入状況 | エアモルタル注入状況を撮影する。 | |
| | エアモルタル充填完了状況 | エアモルタル充填完了状況を撮影する。（監督員立会） | |
| | エアモルタル充填配管撤去状況 | エアモルタル充填するために使用した配管及びバルブ等について舗装下 30cm まで撤去した状況を標尺をつけて撮影する。 | |
| エアモルタル充填工<br>（品質管理） | 湿潤密度測定 | 各項目を測定し撮影する。（監督員立会） | 施工日毎<br>供試体３本<br>材令 28 日 |
| | 空気量測定 | | |
| | フロー値測定 | | |
| | 一軸圧縮強度測定 | | |
| その他 | 保安施設 | 工事看板、各種標識、安全施設等の設置状況及び交通誘導警備員の配置等の交通整理状況を撮影する。 | 適宜１回 |
| | 管理施設 | 建設業許可、体系図等の掲示状況を撮影する。また、現場事務所等の設置状況を撮影する。 | 適宜１回 |
| | 安全教育 | 安全教育、訓練等(災害防止協議会、新規入場者教育、KY 活動等)の実施状況を撮影する。 | 適宜 |
| | 残土運搬 | 残土処分地の所在を黒板に明記し、全景を撮影する。（監督員立会） | 搬入前<br>搬入後 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| その他 | 資材置場 | 使用前、使用中の状況及び使用後の復旧完了を撮影する。 | 適宜 |
| | 排出ガス対策型建設機械使用状況 | 基準適合表示（ラベル）がついている排出ガス対策型建設機械の全景を撮影する。さらに、基準適合表示（ラベル）の近景も撮影する。 | 表1.4.1に適する建設機械 |
| | その他 | 監督員の指示する内容を撮影する。 | 監督員の指示による |

(2)　撮影方向

工事写真は、起点から終点に向かって撮影し、全工種において方向を統一して撮影すること。なお、異形管部を撮影する場合は黒板の略図はそのままで横方向からも撮影し、必要に応じて逆方向からも撮影すること。

給水管連絡工及び給水管取替工は、下記の図を参考にして新設管から宅地に向かって撮影すること。



(3)　撮影位置等の表示

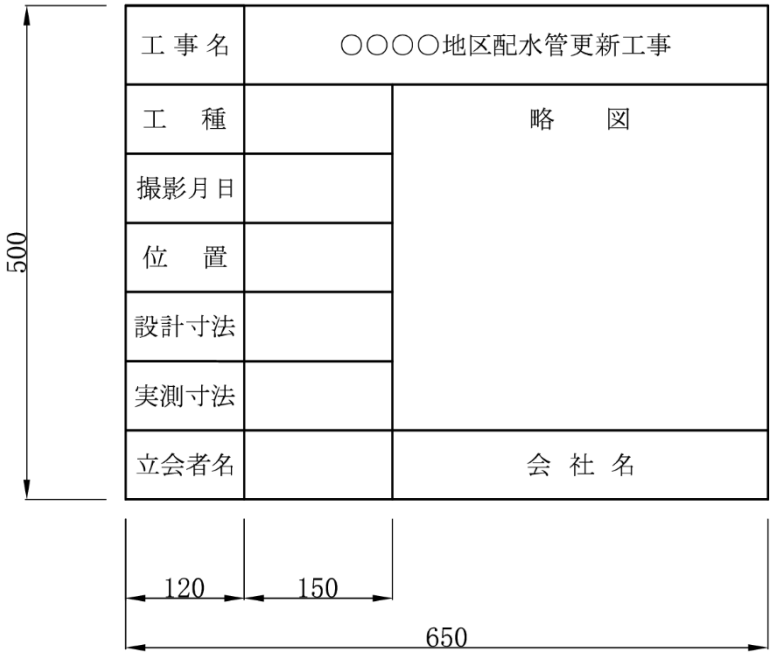
ア　工事写真には、撮影用黒板を必ず入れ、必要項目をすべて記入し撮影すること。

イ　位置の確認を容易にするため、できるだけ周囲の地形、家屋等を背景に入れること。なお、１枚で状況が確認出来ない場合は、組写真にする。

ウ　配管状況、給水管連絡工等は、配管立体図を黒板に明記すること。

エ　撮影は、必要に応じて遠距離（被写体の全体状況）と近距離（出来形寸法等の確認）から行う。

図 6-1



(4)　寸法の表示

ア　スタッフ、又はリボンテープ等を使用して、施工寸法が明確に判読できるようにすること。

イ　測定範囲を明確に示せるよう、ピンポール等を使用して目盛りを示すこと。

ウ　目盛りを表示するにあたり、原則として0値から使用すること。

エ　寸法を測定する場合、対象物が隠れないように注意すること。

オ　路盤等の仕上がり厚さについては、下がり寸法(地表面からの寸法)から算定すること。具体例を次に示す。

a　布設工で管理した土被り(H1)を基準とする。

図 6-2

| 工事名 | ○○○○地区配水管更新工事 | |
|---|---|---|
| 工　種 | 布設工 | 略　図 |
| 撮影月日 | ○月○日 | 出来形管理<br>土被り測定<br>G.L.<br>H1<br>DGXE φ100 |
| 位　置 | No.1 | |
| 設計寸法 | H1＝900 | |
| 実測寸法 | H1＝900 | |
| 立会者名 | | ㈱○○工業 |

b　埋戻しの各層の締固め厚さを管理する。

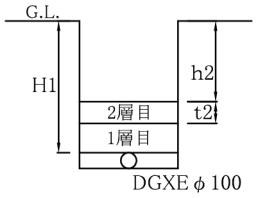
図 6-3(1)

| 工事名 | ○○○○地区配水管更新工事 | |
|---|---|---|
| 工　種 | 埋戻工 | 略　図 |
| 撮影月日 | ○月○日 | 砂埋戻締固め<br>1層目転圧完了<br>G.L.<br>H1<br>h1<br>1層目<br>t1<br>DGXE φ100<br>t1＝900-700＝200 |
| 位　置 | No.1 | |
| 設計寸法 | | |
| 実測寸法 | t1＝200 | |
| 立会者名 | | ㈱○○工業 |

※埋戻各層毎の締固め厚管理を h1 の測定により行う。

図 6-3(2)

| 工事名 | ○○○○地区配水管更新工事 | |
|---|---|---|
| 工　種 | 埋戻工 | 略　図 |
| 撮影月日 | ○月○日 | 砂埋戻締固め<br>2層目転圧完了 |
| 位　置 | No.1 | |
| 設計寸法 | | |
| 実測寸法 | t2＝150 | t2＝700-550＝150 |
| 立会者名 | | ㈱○○工業 |

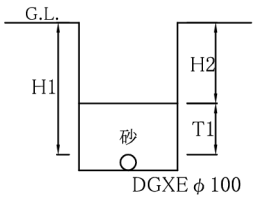



※２層目以降は、左に示す図により管理を行なう。

c　埋戻しが終わった時、下がり寸法(H2)を撮影する(地表面からの寸法)。厚さ(T1)は、T1=H1-H2 の式で算出する。

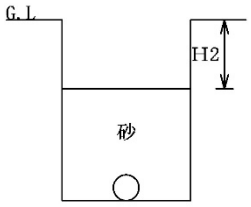
図 6-4

| 工事名 | ○○○○地区配水管更新工事 | |
|---|---|---|
| 工　種 | 埋戻工 | 略　図 |
| 撮影月日 | ○月○日 | 出来形管理<br>砂埋戻厚測定 |
| 位　置 | No.1 | |
| 設計寸法 | T1＝350 | |
| 実測寸法 | T1＝350 | T1＝900-550＝350 |
| 立会者名 | | ㈱○○工業 |



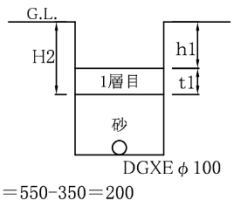

d　下層路盤工(40～0)の基準となる(H2)寸法は、埋戻しの厚さを管理した時の下がり寸法とする。

図 6-5



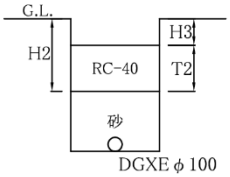
e　下層路盤工(40～0)の各層の転圧状況を撮影する。

図 6-6

| 工事名 | ○○○○地区配水管更新工事 | |
|---|---|---|
| 工　種 | 路盤工 | 略　図 |
| 撮影月日 | ○月○日 | 下層路盤工<br>1層目転圧状況<br>  <br><br>T1＝550-350＝200 |
| 位　置 | No.1 | |
| 設計寸法 | | |
| 実測寸法 | t1＝200 | |
| 立会者名 | | ㈱○○工業 |

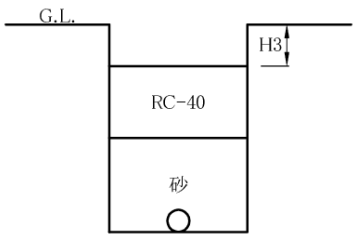
f　下層路盤工(40～0)が終わったとき、下がり寸法(H3)を撮影する(地表面からの寸法)。厚さ(T2)は、T2=H2-H3 の式で算出する。

図 6-7

| 工事名 | ○○○○地区配水管更新工事 | |
|---|---|---|
| 工　種 | 路盤工 | 略　図 |
| 撮影月日 | ○月○日 | 出来形管理<br>下層路盤厚測定<br>  <br><br>T2＝550-200＝350 |
| 位　置 | No.1 | |
| 設計寸法 | T2＝350 | |
| 実測寸法 | T2＝350 | |
| 立会者名 | | ㈱○○工業 |

g　上層路盤工(20～0)の基準となる（H3）寸法は、下層路盤工(40～0)の厚さを管理した時の下がり寸法とする。

図 6-8




h　以下繰り返す。

(5)　緊急報告

災害及び事故発生等、緊急にその状況の報告を必要とする場合、速やかに現況を撮影し報告すること。

(6)　撮影の心得

ア　設計図書の内容に基づき、着工前に撮影計画を立てること。特に、完成後に不可視になる部分は撮り忘れがないようにすること。

イ　仕様書に従い撮影するものとするが、現場において別途撮影が必要と思われる事項が生じた場合は監督員と協議すること。

ウ　撮影時期を失わないよう、現場の進行状況を常に把握すること。

エ　構成及び撮影方法を常に工夫し、明瞭な写真品質を確保すること。

オ　現場内を常に整理整頓し、土砂・材料・工具等が散乱した状態で撮影しないこと。

カ　夜間工事は、十分な明るさを確保して撮影すること。

6.3　整理・編集

(1)　工事写真の確認

ア　撮影済み工事写真データは、速やかに印刷し、目的にあった工事写真ができているか確認すること。

イ　デジタルカメラによる工事写真の撮影は、現場確認が明瞭にできる有効画素数100 万画素数以上から 300 万画素数程度で、目的物及び黒板の必要な文字、数値等の内容が判読できる機能、精度を確保できる器材を使用する。

(2)　工事写真の大きさ

工事写真はＬ版（89㎜×127㎜）またはDSC 版（89㎜×119㎜）を標準とするが、特に監督員が必要と認めたときは、指定された大きさにすること。

(3)　工事写真帳の整理・編集

ア　工事写真帳の大きさ等は、様式８を参考にA4 版を標準とする。

イ　工事写真の並び順は表 6-1 を参考に工種毎に見出しを付け、工種毎に工事の起点から順序よく作業順に整理すること。余白に位置・工種・名称・内容・設計値（黒字)・実測値（赤書）等の工事写真の説明を明記すること。

ウ　工事写真帳の提出については、デジタルカメラにより撮影した場合は、L 版またはDSC 版用紙に写真画質で印刷し、工事写真帳に差し込んで整理したもの、又は、工事写真帳を電子媒体で作成しカラー印刷したものを電子媒体と一緒に提出すること。

電子媒体をカラー印刷して提出する場合は、カラープリンタをフルカラーとし、解像度は、目的物及び黒板の文字等が確認できる範囲で適切な設定にする。インク、用紙等は、通常の使用条件の下で３年程度、顕著な劣化が生じないこととし、カラー印刷専用紙又は同等品以上を使用すること。

提出する電子媒体はＣＤ－Ｒとし、記録画像ファイル形式は、ＪＰＥＧ形式（非圧縮から圧縮率１／８まで）を原則とし、「青森県電子納品運用ガイドライン」に準拠したウイルスチェックを行い提出すること。

工種・規模により、特に監督員が承諾した場合はこの限りではない。

エ　工事完成後、監督員に指示された部数を、遅滞なく提出すること。
オ　工事完成前であっても、監督員に工事写真を求められた場合は、速やかに提出できるように常に整理しておくこと。